

第67回大阪建築コンクール入賞発表

主催／公益社団法人大阪府建築士会 後援／大阪府

■渡辺節賞部門 渡辺節賞 箕面の家

設計者 本岡一秀・伊藤祐紀（本岡伊藤アーキテクト）



本岡一秀
1991年3月生まれ
2013年 京都工芸繊維大学工学部造形工学課程卒業
2015年 京都工芸繊維大学大学院工学研究科建築設計学専攻修了
2015年 株式会社安井建築設計事務所
2022年 株式会社YAP一級建築士事務所
2022年 本岡伊藤アーキテクト一級建築士事務所開設
2023年 関西学院大学非常勤講師

[主な建築作品と受賞歴]

2021年「箕面の家」名古屋モザイク工業DESIGN AWARD 2022 ファイナリスト優秀作品
2022年「宝塚の家」



伊藤祐紀
1988年10月生まれ
2010年 豊田工業高等専門学校建築学科卒業
2012年 京都工芸繊維大学工学部造形工学課程卒業
2015年 京都工芸繊維大学大学院工学研究科建築設計学専攻修了
2015年 株式会社竹中工務店
2022年 本岡伊藤アーキテクト一級建築士事務所 共同主宰
2024年 関西学院大学非常勤講師

[主な建築作品と受賞歴]

2019年「深江竹友寮(前職)」2022年日本建築学会近畿支部新人賞(作品)
2021年「箕面の家」名古屋モザイク工業DESIGN AWARD 2022 ファイナリスト優秀作品
2022年「宝塚の家」

建築位置／箕面市	階 数／地上 2 階
建物用途／戸建住宅	敷地面積／99.66㎡
建築主／本岡一秀・本岡仁美	建築面積／57.46㎡
施工者／コムウト	延床面積／99.62㎡
竣工年月／2020年10月	
構造／W造	撮影 Yosuke Ohtake

〈審査講評〉閑静な住宅地の狭小な敷地に建つ設計者の自邸。1階の窓の腰高を高くすることにより、周囲からの視線からプライバシーを守りながらも2階窓と一体とすることにより、吹き抜けとした内部空間全体に明るさを確保。東西に立ち並ぶ隣家のセットバック部に居間を配し、光と風が通り抜ける開放的な空間。細長い建物の居場所により天井高が変化する空間構成は心地よく、爽やかで意欲的な作品である。（審査委員 浅尾 宏）

■渡辺節賞部門 渡辺節賞 しらさぎ子ども図書館－詩の森－

設計者 湯川晃平（ユカワデザインラボ一級建築士事務所）



湯川晃平
1985年3月生まれ
2007年3月 京都大学工学部建築学科卒業
2009年3月 京都大学大学院工学研究科建築学専攻修了
2023年3月 京都芸術大学大学院芸術研究科(通信教育)芸術専攻 学際デザイン研究領域修了

2009年4月 株式会社竹中工務店入社
2020年8月 株式会社竹中工務店退社
2020年12月 ユカワデザインラボ一級建築士事務所開設
現在に至る

2020年4月 京都橘大学非常勤講師
2023年4月 摂南大学非常勤講師

[主な建築作品と受賞歴]

2012年 グッドデザイン賞(前職)
2014年 東京建築賞 第40回建築作品コンクール共同住宅部門優秀賞(前職)
2020年 日本空間デザイン賞入賞(前職)
2023年 日本空間デザイン賞入選/しらさぎ子ども図書館－詩の森－
2023年 ウッドデザイン賞入賞/同上

建築位置／堺市	
建物用途／集会所	
建築主／公益財団法人しらさぎ育英基金	
施工者／株式会社ヴィーコ	
竣工年月／2023年3月	敷地面積／281.44㎡
構造／W造	建築面積／134.25㎡
階 数／地上 2 階	延床面積／192.17㎡

撮影 田中克昌

〈審査講評〉私設の図書館と子ども食堂が、小さな建物の中に同居している。少し広めの住宅ぐらいのスペースに、広い場所や狭い場所が大階段によってうまく繋ぎ合わされ、包まれるような場所が生まれており、軽く「く」の字に折り曲げられた平面や、片流れの屋根の軒先からさらに垂れ壁が下がる「枝垂れた屋根」などの空間的な工夫が、こういった居心地良い場所づくりに、新しくかつ発見的な効果をあげていた。（審査委員 山本麻子）

■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞

奨励賞

■渡辺節賞部門 渡辺節賞

趣旨

建築士はその職責を通じて地域社会の発展に寄与し、建築美を通じて建築文化の向上、ひいては地域文化の振興にも寄与していく必要があります、その責務は重大である。大阪建築コンクールは、建築士と社会とのかかわりを通じて建築作品を評価し、その優れた実績をたたえ、建築作品の設計者である大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の設計者を表彰する。同時に行う渡辺節賞については、新しい建築文化の原動力となる若い優れた設計者をたたえ、さらなる発展を望むものである。

募集範囲

2018年1月1日から2023年12月31日の間に竣工し、完了検査済証の交付を受けた建築物

* 建築確認申請不要物件は完了検査済証不要

* 竣工年月日は工事完了時

審査経過並びに総評



審査委員長
橋爪紳也

前年度に引き続き、審査委員長を担わせていただいた。

「大阪建築コンクール」は、昭和29年、建築士が職責を通じて地域社会の発展に寄与し、建築美を通じて建築文化の向上、地域文化の振興に寄与するべく、建築作品を評価し、優れた建築作品の設計者を表彰することを目的として創設された。占領下にあったわが国が主権を回復して2年後、復興から高度経済成長に向かう途上で設

壊と家

IIS/IIK 堺新事務所

エア・ウォーター健都事務所

箕面船場阪大前駅エントランス

箕面の家

しらさぎ子ども図書館－詩の森－

斉藤智士

森田昌宏・越野達也・木南達也

小幡剛也・平岡健太郎・河崎菜摘

前田茂樹・中西富仁広

本岡一秀・伊藤祐紀

湯川晃平

審査

応募数 大阪府知事賞部門 35点
渡辺節賞部門 11点

審査委員会 4回

●第1次審査

2月20日 書類・図面、写真によって、大阪府知事賞部門10点、渡辺節賞部門4点を選考

●第2次審査

2月26日、3月13日 第1次審査通過作品について現地審査を2日間実施

●最終審査

3月13日 第2次審査終了後に実施
大阪府知事賞部門：大阪府知事賞2点、
大阪府知事賞部門：奨励賞2点、
渡辺節賞部門：渡辺節賞2点を選出
表彰式

日程 令和6年5月22日(水)
本会定時総会式典席上

会場 KKR ホテル大阪

けられた大阪の建築界にあって重要な顕彰制度である。しかし昨年の総評にも記したように、各年度の最優秀建築士を選ぶアワードとしては応募数が十分でない。

かつてのシカゴがそうであったように、戦前期から戦後高度成長期までの大阪では個性的な建築家が魅力的な建築群を生み出していた。現在のロッテルダムがそうであるように、大阪は「建築の都市」と称するに値するほど、建築が都市のアイデンティティの一部を構成していた。私は往時の状況を鑑みて、豊かな建築文化が創造される「建築の都市」として大阪を再創造したいと考えている。そのために「生きた建築ミュージアム」の概念を示し、日本最大の建築フェスティバルを立ち上げてきた。

都市名を冠とする「大阪建築コンクール」の活動も、大阪をふたたび、世界的な「建築の都市」とするムーブメントを起こ

すうえで、一翼を担っていただければと願ってやまない。建築界の革新と発展を促すアワードとなるべく、再起動をはかれんことを関係各位に求めたい。

以下、本年度の審査の経過について述べておきたい。今年は大阪府知事賞部門に35点、渡辺節賞部門に11点の応募があった。まず書類による1次審査を実施、投票で多くの票を集めた上位作品および個別の委員から強い希望があった14作品を審査の対象とした。そのうえで現地を訪問し設計者や施主から説明を受け、質疑応答を行った。

最終審査は大阪府建築士会の事務局で行った。贈賞に値するとされた作品と建築士を選定、全員の合意を得て2点を「大阪府知事賞」、2点を「渡辺節賞」とすることになった。また知事賞とするには全員の一致を見なかったが、複数の委員から強く推す意見があった2点について、審査委員長の

判断によって奨励賞を贈ることとした。

個別の評価については別掲の審査講評を参照していただければと思う。概観すると本年度は、オフィスビルの新たな姿を提示する作品が目についた。新型コロナウイルス感染症が世界的に流行するさなかに提唱された「ニューノーマル(新しい日常)」、ないしは「アフター・コロナの時代」に応じるべく、リモートワークやフリーアドレスに対応したオフィスが常識となるなかで、新たなワークスペースのデザインが各所に現出しつつあることを確認した。今後、この領域にあって、優れた作品が続々と生まれることになるだろう。

以下では贈賞には至らなかったが、最終審査の対象となり、印象に残った作品について簡単に触れておきたい。

「CONCOM 南久宝寺」は大阪の中心市街地である船場地区にあって、街区内に取り残された狭小地や変形地を建築設計士がみずから購入のうえ設計、テナントを誘致し、内装の設計・施工を行い、継続して管理するものである。間屋街の空き地にタワーマンションやホテルの建設が相つぐ

地域にあって、建築家が職能を越えて、持続可能なまちづくりに参画する意欲的な事業である。今後、複数の同様のプロジェクトが進行していると応募書類に記載があった。さらなる展開が楽しみである。

「Panasonic XC KADOMA」は、自然やまちに開かれた「ニューノーマル時代のワークプレイス」を目標に、複数のグループ会社のオフィスを受け入れるべく新築されたビルである。建屋の中央に居心地の良い外部環境を取り込み、共用空間とするなど良く練られた建築計画だと思う。今後、近接して研究棟を新築、道路を挟んで南に接する駅とブリッジで繋ぐ予定であるという。エリア全体をリノベーションするなかで端緒となる建物として評価したい。ただ今回は新しいオフィスの応募が複数あり、本作品を推す委員もあったが、相対的な評価の結果、賞にまでは至らなかった。

「KANEKA Wellness Center」は、既存の雑木林を保全しながら、企業の健康福祉に関連する施設を建設したものである。保存樹木のあいだに収まるように、複数の多面体の大屋根を構成したデザインに特徴が

ある。

「大阪大学箕面キャンパス 外国学研究講義棟」は、駅前再開発の中核施設として、街の顔となると同時に地域に開かれたキャンパスとなるように設計がなされた。かつて上本町に大学があった時代のメモリアルである鉄扉を活用するなど、伝統を継承する試みも印象深かった。

「六甲 奥々の家」は、六甲山系にある奥池の住宅地のなかでもっとも高台に位置して、遠く大阪湾や市街地を望む地に立つ邸宅である。取得から10年以上、ここに住まいを建設したいと想いを温めてきた施主の希望を受けて、建築士がかたちにしたものだ。六甲山系の植生への配慮などが印象的であり、真に優れた住宅であると評価されたが賞には至らなかった。

アプローチはそれぞれに異なるが、本年度も最終選考に残った作品の多くが、土地の履歴や周辺環境を読み込んだうえで、地域に開く新しい建築をかたちにしたいという建築士の意欲を強く感じさせるものであった。設計者の熱意と創意に敬意を表したい。

■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞 IIS/IIK 堺新事務所

設計者 森田昌宏・越野達也・木南達也(株式会社竹中工務店)



建築位置／堺市	竣工年月／2023年4月	建築面積／2,691.74㎡
建物用途／事務所	構造／S造	延床面積／7,581.62㎡
建築主／株式会社IHIインフラシステム	階数／地上3階	
施工者／株式会社竹中工務店	敷地面積／170,145.04㎡	撮影 小川重雄

〈審査講評〉橋梁・鉄鋼事業を手掛ける企業の2つの子会社を統合する新社屋である。ノコギリ屋根の窓からは自然光が降り注ぎ、縦動線を中心に、「ABW」と呼ばれる働き方に応じる様々な場所が配置されている。労働環境が改善し、交流が増えたと話す社員の顔は明るい。鉄骨造の鋼材は全てあらかし。板取りして製作した鋼板のサイン、カテナリー曲線を描くワイヤーで吊った照明など、鉄の質感と技術力を来客にさりげなく伝えるデザインが楽しい。堺の臨海部の工場群に新たな風景を作っている。(審査委員 樹田洋子)



森田昌宏
1963年11月生まれ
1987年3月 京都大学工学部建築学科卒業
1989年3月 大学院修士課程修了
1989年4月 株式会社竹中工務店入社
[主な建築作品と受賞歴]
2012京都デザイン賞大賞・2014建築学会「作品選集2014」・2014第3回インテリアプランニングアワード2014優秀賞・2014第7回NISCイソバンドデザインコンテスト グランプリ・2014年度グッドデザイン賞・萬福寺第二文華殿／2013第7回「みどり香るまちづくり」企画コンテストにおいかり環境協会賞・2013DSA空間デザインコンペティション入選・2013第20回空間デザインコンペティション最優秀賞・2014第3回インテリアプランニングアワード2014橋本夕紀夫賞・2014年度グッドデザイン賞・2014建築士会連合会賞優秀賞・2014第34回大阪都市景観建築賞緑化賞・2014建築学会「作品選集2015」:旧桜宮公会堂



越野達也
1982年9月生まれ
2006年3月 東京都立大学工学部建築学科卒業
2008年3月 首都大学東京大学院修士課程修了
2008年4月 株式会社竹中工務店設計部入社
2019年4月 株式会社竹中工務店設計部課長
[主な建築作品と受賞歴]
東京建物八重洲ビル／在原製作所藤沢事業所本館／風のpromナードーニフコYRPー／東京ガーデンシアター
2017年 第27回AACA日本建築美術工芸協会賞戸原義信賞(新人賞)／2017年 第5回鈴木禎次賞優秀賞／2017年 日本建築家協会優秀建築選JIA優秀建築選(100選)／2017年 第15回照明デザイン賞優秀賞／2014年・2017年 第58回・第61回神奈川建築コンクール優秀賞／2018年 日本建築士会連合会賞奨励賞／2020年 日本建築学会作品選集新人賞



木南達也
1989年12月生まれ
2019年8月 株式会社竹中工務店入社
[主な建築作品と受賞歴]
タクマビル新館(研修センター)
第8回鈴木禎次賞大賞／第3回日本建築士会連合会建築作品賞U40建築賞／ウッドデザイン賞2021優秀賞(林野庁長官賞)／令和3年度木材利用優良施設表彰国道交通大臣賞／第14回建築人賞

■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞 壤と家

設計者 齊藤智士(建築設計事務所SAI工房)



齊藤智士
1986年8月生まれ
2011年3月 京都芸術大学建築デザインコース卒業
2013年3月 広渡建築設計事務所退社
2013年4月 建築設計事務所SAI工房設立 現在に至る
2017年3月-2021年3月 修成建設専門学校非常勤講師
2021年4月 京都芸術大学非常勤講師
2021年4月 摂南大学 非常勤講師
[主な建築作品と受賞歴]
「堺の家」2016年 ケミュ-施工事例コンテスト 優秀賞(竹原賞)
「堰の家」2021年 第64回大阪建築コンクール 渡辺節賞
「KOKAGEビル」2023年 JIA中国建築大賞 2022 奨励賞
「棟原郷の屋根と床」2023年 第15回くすのき建築文化賞 佳作
「壤と家」2023年 ARCHITECTURAL DESIGN AWARD 2023 優秀賞

建築位置／淡路市	建築主／個人(U様)	竣工年月／2022年4月	階数／地上2階	建築面積／185.52㎡	
建物用途／戸建住宅	施工者／株式会社池正	構造／W造	敷地面積／528.04㎡	延床面積／185.52㎡	撮影 山内紀人

〈審査講評〉元々田んぼだった軟弱地盤への配慮、隣接する母屋との関係性、そして周辺環境への開放性とプライバシー確保のバランス、いずれもがスマートに解決された秀逸な作品であった。平面計画はもとより、断面計画において、これらの課題が上手に解かれており、約1mの高さに地盤を設定したことや深い軒下空間と土間空間との連続性が、大地や自然の存在を味方につけ、落ち着いた佇まいを獲得することに成功していると高く評価できる。(審査委員 根本哲夫)

■大阪府知事賞部門 奨励賞 エア・ウォーター健都事務所

設計者 小幡剛也・平岡健太郎・河崎菜摘(株式会社竹中工務店)



撮影 母倉知樹



小幡剛也
1969年2月生まれ
1991年 京都大学工学部建築学科卒業／1993年 同大学院修了／1993年 株式会社竹中工務店設計部入社／2024年 同設計部長
2021年 三栄建設新鉄構事業本部新事務所:第63回BCS賞・大阪建築コンクール知事賞・AACA賞奨励賞／2022年 サントリー天然水北アルプス信濃の森工場:日本空間デザイン賞(サステナブル空間賞/審査員特別賞)・グッドデザイン賞



平岡健太郎
1972年8月生まれ
1999年3月 早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻修了／1999年4月 株式会社竹中工務店入社
2003年 SDA優秀賞:IRIBIA／2005年 大阪市ハウジングデザイン賞:大阪イーストガーデンスタワー／2010年 大阪市ハウジングデザイン賞・グッドデザイン賞:N4.TOWER／2022年 医療福祉建築賞:国立循環器病研究センター



河崎菜摘
1991年8月生まれ
2014年3月 京都工芸繊維大学工学芸科学部造形工学課程卒業／2014年4月 同大学院造形化学科建築学専攻入学／2016年3月 同卒業／2016年4月 株式会社竹中工務店設計部入社

〈審査講評〉在宅ワークの可能性が広がる今、オフィス空間の価値は効率よく働く場所を超えて、来たくくなるような場所づくりが求められている。ここでは、地域に開かれた1階カフェから、ワークキングスペースを経て上階の執務スペースまでが、吹き抜け周囲にスキップしながら上がっていくフロアによって繋ぎ合わされている点に、新しい価値が感じられた。各フロア外周をめぐるワークテラスも相まって、豊かな働き方のイメージが実現されていた。(審査委員 山本麻子)

■大阪府知事賞部門 奨励賞 箕面船場阪大前駅エントランス

設計者 前田茂樹(ジオ・グラフィック・デザイン・ラボ)
中西富仁広(株式会社東畑建築事務所)



撮影 JIKU ART



前田茂樹
1974年1月生まれ
1998年3月 大阪工業大学工学部建築工学科卒業／2000-10年 ドミニク・ペロー・アーキテクチュール(DPA)／2010年 ジョーグラフィック・デザイン・ラボが設立
〈高浜町6次産業施設UMIKARA〉2021年 グッドデザイン賞2021・2022年 日本建築家協会(JIA)優秀作品選2022・2023・2022年 第31回日本美術工芸協会AACA賞入選／〈三宅町交流まちづくりセンター-MiiMo〉2022年 奈良県建築士会「場を生むデザイン賞」優秀賞・2023年 大阪建築コンクール奨励賞・2023年 日事連建築賞奨励賞



中西富仁広
1967年1月生まれ
1989年3月 大阪工業大学工学部建築学科卒業／1989年 東畑建築事務所入社、現在同社設計室部長／2017年 大阪工業大学非常勤講師／2023年 大阪工業大学大学院非常勤講師
〈同志社大学医心館〉2012年 日本建築学会作品選集／〈大阪市立大学理系学舎〉2015年 日本建築家協会(JIA)優秀建築選／〈京都工芸繊維大学KYOTO Design Lab〉2020年 日本建築学会作品選集

〈審査講評〉前例が重んじられ、機能性が何より優先される駅空間において、通過動線に魅力的な余白空間が巧みに組み込まれていることや、開放的な高い膜屋根を実現していることが印象的である。これらは様々なアクティビティを発生させる余地を内在しているとともに、「最寄り駅」としてのアイデンティティを確立している。土木基準で解かなくてはいけない厳しい状況下でも、大胆かつ肌理細やかな空間構成が実現している点も高く評価したい。(審査委員 根本哲夫)